☆LCAF（エルカフ）通信☆　No.41　 2022 年 2 月 28 日号

＊オミクロン株に気をとられていましたら、ウクライナがたいへんな状況になってしまいました。北朝鮮はミサイルを発射しますし、不安な状況が拡大しています。皆様どのようにお過ごしでしょうか。

_/_/_/　I　N　D　E　X　_/

・ISO 情報………………TC207 のファイナンシャル系の新規格の発行状況です。
・LCAF からお知らせ…2022 年 2 月 26 日（土）LCA 中級検定試験を実施しました。
・編集後記………………年度末です。

■■　ISO 情報　ファイナンシャル系の新規格の発行状況です。■■　───

2 月 24 日(木)に ISO/TC207(環境マネジメント)の国内審議委員会がありました。ISO/TC207 の全体の活動を知るための貴重な機会です。というのも、TC207 の所掌範囲が環境からサステナビリティに広がり、それぞれの規格作りをそれぞれの専門家がそれだけを担当するという傾向がますます強くなっているからです。以下、TC207 国内審議委員会で報告されたファイナンシャル系の新規格の状況をお知らせします。

〇ISO14097:2021（気候変動ファイナンス）

2021 年 5 月に発行されました。正式名称は「気候変動に関連する投資と資金活動を評価及び報告するための原則と要件を含むフレームワーク」です。機関投資家に対して、気候変動のリスクと対応方法を特定し、気候変動へのモニタリングと結果の評価、報告に関する枠組みを示すものとされています。機関投資家は ESG 投資に関する情報公開を求められていますので、開示する情報のガイドを示しているものと言えます。

〇ISO/DIS14100:グリーンファイナンス-グリーン金融プロジェクトの評価

現在 DIS 段階です。2021 年発行予定とされていましたが、ちょっと遅れているようです。グリーンプロジェクトを実施する際に、投融資の借り手と貸し手がプロジェクトの環境側面に関するリスクの認識とその対応の方法、評価方法についての枠組みを示したものとされています。

〇ISO14030 シリーズ（グリーンボンド）

4 つの規格で構成されています、ISO14030-1(Part1:グリーンボンドのプロセス)、ISO14030-2(Part2:グリーンローンのプロセス)及び ISO14030-4(検証プログラムの要件)は昨年(2021 年)9 月に発行されました。Part1 と Part2 はそれぞれ、グリーン債券を発行する時の手順、グリーンローンの貸し手と借り手の要件とされ、Part4 はそれらの検証の方法を示しています。残りの一つが ISO14030-3(タクソノミー)が遅れていました。この規格は、Part1(グリーンボンド)及び Part2(グリーンローン)を発行する時に、どのような技術/活動を「グリーン」とするか定義するものです。最初に作られた DIS は EU のタクソノミーの定義がそのまま書かれていましたので各国の投票で否決され、グリーンであることを定義する具体的な閾値を本文から除き、ベストアベイラブルテクノロジーを認めるなどの修正を加えて、昨年 9 月に承認されました。もうすぐ発行されるということです。

TC207 以外にも、私が国内審議委員会の委員として関与している以下があります。

〇ISO/DIS32210

現在 ISO/DIS32210(サステナブルファイナンスの原則と枠組み)が各国の投票にかけられています。この規格は 2018 年に設立された TC322(サステナブルファイナンス)の最初の規格です。「金融機関や投資家、資産運用会社、関連サービスプロバイダーを含む、金融セクターで活動するすべての組織に適用可能」で、「ステークホルダー・エンゲージメント、報告、開示などの行動を通じて、サステナビリティの原則、指針、慣行、及び内部ガバナンスとの整合性を示す」ものとされています。サステナブルとしてリスクの例として、気候変動、サステナブルな天然資源の利用、生物多様性の喪失、世界的なパンデミック、慢性疾患、高齢化、社会的不公平感や不安感など、社会の二極化、サイバーセキュリティ、自然災害が挙げられていますが、これらに対応する具体的な方法論が示されているわけではないので、結局はこれらを考えてのガバナンスの重要性を示しているように思います。

以上、ファイナンシャル系の新規格の動きです。全体としてみると、金融関係者がグリーンまたはサステナビリティのために活動するために、ガバナンスとして注意すべきことが示されているように思います。私が今まで関与して来たファイナンシャル系の規格には、ISO14008:2019(環境影響及び関連する環境側面の貨幣評価)や ISO14007:2019(環境コスト及び便益の特定)がありますが、これらは企業活動の環境影響を貨幣価値に換算して分析するという具体的な方法を示す規格です。具体的な方法を示すという意味では、ライフサイクルアセスメント（LCA）の規格も含めて、従来の ISO の水質測定方法などの流れにあると言って良いと思います。

ファイナンシャル系の規格を実施する際には、必ず具体的な測定方法が必要になります。タクソノミーも最終的にはライフサイクルで評価することになります。持続可能性の評価には、前号(LCAF 通信 No.40)で紹介したソーシャル LCA の方法が必要になるでしょう。

金融機関が企業の活動を評価するということが今後、ますます大きくなってくると思います。それに対応するための測定方法を熟知することが必要になっていると思います。

■■ LCAF からのお知らせ ■■

○2021 年度の中級検定試験を 2022 年 2 月 26 日（土）に実施しました。受験者は 15 名でした。
○2022 年度の LCA の研修と検定試験を以下のように予定しています。

・初級研修：2022 年 4 月下旬,　初級検定試験：2022 年 6 月下旬
・中級研修：2022 年 5 月下旬,　中級検定試験：2022 年 7 月下旬

■■ 編 集 後 記 ■■

北京オリンピックを「そだねー」、「いいと思うよ」とホンワカしているうちにオミクロン株の新規感染者がものすごい勢いで増え、今度はロシアがウクライナ侵攻です。気候変動や SDGs どころの話ではありません。

年度末に向かって年度内契約の仕事が大詰めになり、LCAF 通信を書く時間がありませんでした。前号が 1 月 31 日発行でしたので、危うく 2 月中の発行がないという事態でした。やっと暖かくなってきましたが、花粉症で鼻水が止まりません。確定申告もまだ済ませていません。ウクライナも気になります。落ち着いて、平和なお花見シーズンを迎えたいものです。

(LCAF 理事長　稲葉　敦)

ご意見,ご感想,本メールマガジンの解除のご連絡はこちらまで
lcaf-contact@lcaf.or.jp

一般社団法人　日本 LCA 推進機構
Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre（LCAF）
（エルカフと呼んで（読んで）ください）
〒71-0014　東京都豊島区池袋 2-36-1
インフィニテイ池袋 8F52
電子メール：lcaf-contact@lcaf.or.jp
URL:https://lcaf.or.jp/